

氏名	盛 海 云
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 1994 号
学位授与の日付	平成12年3月25日
学位授与の要件	医学研究科外科系外科学（二）専攻 （学位規則第4条第1項該当）
学位論文題目	Prognostic Value of Vascular Endothelial Growth Factor Expression in Primary Lung Carcinoma （予後値としての原発性肺癌におけるVEGF発現についての研 究）
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 原田 実根 教授 岡田 茂

### 学位論文内容の要旨

腫瘍内 VEGF の発現は、腫瘍自身の増殖、転移に重要であるとされている。今回我々は 1989 年 2 月より 1991 年 12 月までの間に岡山大学第二外科において切除した原発性肺癌 98 例を対象とし、免疫染色にて VEGF、新生血管の指標として Factor VIII の発現を全細胞中の陽性細胞で測定し、臨床病理学的因子、術後 5 年経過と比較検討した。その結果、VEGF 陰性症例は 48 例で、48.9%であり、弱陽性が 27 例、強陽性が 23 例と約半数以上の症例で VEGF の発現が認められた。腫瘍内新生血管密度と VEGF の発現は有意に相関した。VEGF の発現の程度を陰性、弱陽性、強陽性にわけると、それぞれの手術後 5 年生存率は 79.2%、43.9%、8.7%と有意な差を認めた。多変量解析では VEGF 発現は独立した予後判定因子であった。以上より、VEGF の発現は腫瘍内新生血管密度と有意に相関していた。VEGF 陽性例の予後は不良であった。VEGF 発現は独立した予後判定因子になるうことが示された。

### 論文審査結果の要旨

本研究は原発性肺癌98例を対象とし、免疫染色にてVEGF、新生血管の指標としてFactor VIIIの発現を全細胞中の陽性細胞で測定し、臨床病理学的因子、術後5年経過と比較検討したものである。その結果、約半数以上の症例でVEGFの発現が認められ、腫瘍内新生血管密度とVEGFの発現は有意に相関した。VEGFの発現の程度を陰性、弱陽性、強陽性にわけると、それぞれの手術後5年生存率は79.2%、43.9%、8.7%と有為な差を認め、多変量解析ではVEGF発現は独立した予後判定因子であった。以上より、VEGF発現は予後判定因子として有用であることが示された。

本研究は肺癌の予後予測に於けるVEGFの発現の重要性を示したものであり、よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。